
調査・実践報告

言語・文化に関する題材の一考察
—英語教員採用試験の長文読解問題から—

On Issues of the Theme of Language and Culture,
with Special Reference to Reading Comprehension in
English Teacher Employment Examinations

吉野 康子^{1)*}

Yasuko YOSHINO^{1)*}

Abstract

This paper surveys and analyzes 25 prefectural Teacher Employment Examinations used in the Kanto and Kansai districts of Japan between 2011 and 2015. There are three essential qualifications tested on the written examinations for high school English teachers in Japan. They are “English language knowledge and skills,” “knowledge of the course of study,” and “understanding and practice of teaching methods.” Yoshino (2012, 2013) examined the latter two qualifications. This paper studies the first qualification. This study evaluates quality of the questions.

This paper consists of three parts. The first part focuses on a quantitative survey and analysis of the reading comprehension questions in the Teacher Employment Examinations. Next, the paper examines the questions dealing with issues of language and culture. In the analysis, questions about language were categorized as questions about language in general or questions specifically related to English. Questions about culture were similarly categorized as either questions about culture in general or questions about the culture of English-speaking regions. Lastly, the paper cites six examples from the examinations and evaluates them on their validity in determining the competency of English teacher applicants.

Key Words

言語・文化・教育に関する題材、英語教員採用試験、長文読解、題材、教員の資質
Themes of Language and Culture, English Teacher Employment Examination, Reading comprehension,
Theme, Aptitude for English teachers

¹⁾ 順天堂大学 国際教養学部 (Email : ya-yoshino@juntendo.ac.jp)

* 責任著者 : 吉野 康子

[October 6, 2015 原稿受付] [January 8, 2016 掲載決定]

1. はじめに

教員採用試験（以下、教採試験）とは、毎年度、全国47都道府県と19の政令指令都市（以下都府県市）の教育委員会が実施している試験である。八木（2007：144）が「教員採用試験も広く批判の対象になるように、人の目にふれる形にするべきである」と述べているように、教採試験の問題や題材の都道府県市による違いを明らかにした研究は少ない。高橋（2011:16-17）は、「英語教員に求められる専門知識・技能を明確にし、共通理解を図る必要がある」と指摘している。教採試験は、教員の出発点として非常に重要で、教員の真価が問われるべきであるし、筆者は2011年度から、英語能力、英語指導法、学習指導要領等に関して、毎年教採試験の問題の分析を行っている。本稿では、2011～2015年度5年間の長文読解問題における「言語と文化に関する題材」にしぼって、調査・考察を行いたい。

長文読解問題の題材を取り上げるのは、読み物の真髄は題材であり、かならず読み物にはメッセージがあり、教採試験ならではの題材があるべきだと考えるからである。「題材こそくことばの命」である」（森住2015：4）とあるように、英語教員になる人には、ことばについて敏感で、ことばについて考える力が必要である。言語と文化に関する題材を取り上げる理由は、英語教員の資質として重要なもののひとつに、英語に対する観点（言語観）があるからである。言語観とは、言語や文化がどうあるべきかの是非を議論する視点である。教員一般としての資質、英語の知識、運用能力もちろん大切だが、近藤（2015:166）が「文化とは〈生活様式の全体〉で、“Culture is everything.”とも言われる」と述べるように、言語と文化の結びつきは強く、言語と文化に関する判断が言語観に関わるからである。英語教員の資質として、特に、言語・文化観を重視していきたい。全体の構成は、まず、長文読解問題の全体像を把握し、次に、言語・文化に関する長文読解の題材

にしぼって内容を調査し、言語、文化に関する問題の実例を紹介する。以上のことから、本稿の目的は、以下の3点である。

- (1) 長文読解問題の題材の種類と割合を調査する。
- (2) 2011～2015年度の言語・文化に関する題材を、言語一般、英語、文化一般、英語圏文化と分け、調査する。
- (3) その言語・文化に関する題材の実例を示し、教員の資質を問う問題として適切かどうかを考察する。

今回の調査対象は、2011年度から2015年度の教採試験で、受験者、採用者数が多い関東・関西近郊の25県市¹⁾である。

2. 長文読解問題の概要

2.1. 長文読解問題の題材例

長文読解問題は、2011、2012、2015年度は100%、2013、2014年度は96%の都府県市が扱い、重視していることがわかる。しかし、これらの問題の配点や評価方法に関して、25都府県市の教育委員会の英語指導主事にアンケート調査を行った結果、正確な比率は把握できなかった（吉野2013）。長文読解問題は、都府県市によって、1種類から7種類の出題があり、語数は300語から1000語を超える英文まであり多様である。

紙幅の都合で、2015年度の関東地方(1都6県)の題材例を以下に載せる。

- (1) 東京都:①第二言語習得に関する動機付け、②色彩の認知と言語
- (2) 神奈川県:①日本の歴史や現状の本の書評、②生徒の携帯電話使用の影響
- (3) 千葉県:①ピグミーチンパンジーと人間の社会性、感情表現の類似、②内向的な人と外交的な人の傾向、③言語教育における協同学習の課題、留意点、④若者の不適切な運転の調査結果
- (4) 埼玉県:(中学) ①火星の生命体調査、②

語彙指導、③食の安全性、(高校) ①性格が第二言語習得に及ぼす影響、②ニューヨークでの教師評価法

- (5) 群馬県：(中学) ①失敗を生かす思考法、②ネルソン・マンデラの演説、(高校) ①異なる視点を学ぶ利点、②自分を客観視し、生きる意味を考える教養教育
- (6) 栃木県：①スピーキングテスト
- (7) 茨城県：(中学) ①感謝の言葉の効用、②キャリア教育、(高校) ①寛容性を育てる教育、②社会言語能力と学術言語力、③女子教育の推進と権利、④日本の人口の推移、⑤授業で英語を使用する必要性

2.2. 長文読解問題の分類

本調査では、長文読解問題を、「300語以上の英文を読ませ、内容に関する設問がある問題」と定義し、その題材428問(2011年度77問、2012年度93問、2013年度82問、2014年度87問、2015年度88問)を13の種類に分けた。この13種類は、大学英語教科書協会が定めるジャンルに基づいて、教採試験の内容に合うように筆者が分類したものである。2011～2015年度の長文読解問題の問題数は、77問→93問→82問→87問→89問と変化し、以下はそれらの分類、年度ごと(2011～2015年度)の比率の変化、内容例である。

- (1) 言語一般(8%→7%→13%→9%→13%)
第二言語習得論、消滅する言語、言語力維持
- (2) 英語(4%→2%→4%→0%→1%)
Englishes時代の英語技能、語源学、ことわざ
- (3) 文化一般(8%→8%→10%→5%→6%)
異文化交流の留意点、食文化の変化、色彩認知
- (4) 英語圏文化(1%→1%→4%→1%→0%)
英国の携帯電話マナー、米国の肥満問題
- (5) 教育一般(15%→17%→11%→16%→18%)
ピグマリオン効果、教職員研修、クラス

経営

- (6) 英語教育(13%→17%→23%→15%→20%)
4技能の指導法、英語教師の役割、動機づけ
- (7) 経済(5%→9%→5%→9%→10%)
需要と供給、差別と貧困、農業と経済活動
- (8) 科学・生物・医学(21%→16%→11%→22%→17%) : ips細胞、臓器移植、ロボット研究
- (9) 環境(5%→3%→5%→0%→2%)
熱帯雨林、地球温暖化、森林破壊と環境問題
- (10) 伝記・自伝(6%→6%→5%→5%→4%)
Steve Jobs氏、Malala Youssofzai氏
- (11) 小説・物語(0%→2%→1%→6%→2%)
“Frog and Toad”、“Puppies for Sale”
- (12) 人間関係(10%→9%→0%→1%→0%)
父子の絆、人間関係での賞賛の意味
- (13) その他(4%→3%→8%→11%→7%)
印刷技術の歴史、運転調査結果、書評

3. 言語・文化に関する題材

3.1. 概要

長文読解問題を13の種類に分けた上で、言語・文化に関する題材に絞る理由は、それらの問題が教採試験において重要だと考えるからである。高橋(2012:2-3)でも「英語教育は英語を教えることが使命であることは確かですが、英語で何を教えるかといった視点はもっと大事であるし、もっと考えるべきだと思っています」と述べ、題材の重要性を強調している。仲(2012:66)が、「将来の英語教員の言語文化観が豊かになれば、ひいては生徒のそれを豊かにすることに繋がる」と述べているように、英語教員の言語観、文化観は生徒に影響を与える。英語教員になる人には、ことばに反映される物事の捉え方の違いを大切にしてほしい。

具体的には、言語・文化に関する題材を「言語一般」、「英語」、「文化一般」、「英語圏文化」と4項目に分け、調査した。全体の割合の変化

表 1. 言語一般に関する題材 (2011 ~ 2015 年度)

No 年度	長文読解問題の内容	縣市
1. 2011	第二言語習得の順序	栃木
2. 2011	第二言語習得と学習環境	埼玉 (中)
3. 2011	ボディランゲージ	千葉
4. 2011	多言語環境の言語	山梨 (中)
5. 2011	母語と第二言語の関係	京都市 (高)
6. 2011	Input と output と発話	和歌山 (中)
7. 2012	第二言語習得と意欲	神奈川
8. 2012	話し言葉と書き言葉	福井
9. 2012	言葉と文化	岐阜 (高)
10. 2012	言語コミュニケーション	岐阜 (高)
11. 2012	言葉の変化	岐阜 (高)
12. 2012	消滅する言語	静岡 (高)
13. 2013	ヘレンケラーの演説	茨城 (中)
14. 2013	第二言語習得の個人差	群馬 (高)
15. 2013	言語学習の脳への効用	埼玉 (中)
16. 2013	第二言語習得の臨界期	石川
17. 2013	舞台のセリフと動作	京都府 (高)
18. 2013	読解プロセスと思考方法	京都府 (高)
19. 2013	音節の量による言語感覚	大阪府
20. 2013	Krashen のモニター仮説	和歌山 (中)
21. 2013	第二言語習得の中間言語	京都市 (中)
22. 2013	Spoken・Written text	京都市 (高)
23. 2013	自己調整言語能力の指導	新潟
24. 2014	グローバル社会の第二言語習得	茨城 (高)
25. 2014	成人の第二言語習得論	山梨 (高)
26. 2014	文化用語による言語評価	京都府 (中)
27. 2014	外来語の取り扱い方	京都府 (高)
28. 2014	言語と思考の関係	長野 (高)
29. 2014	言語の文化的価値と平等	京都府 (中)
30. 2014	話し方の調査・分析方法	兵庫
31. 2014	第二言語習得の母語干渉	和歌山 (高)

32. 2015	第二言語習得の動機づけ	東京
33. 2015	学習者の性質と第二言語習得	埼玉 (高)
34. 2015	言語習得と学習との違い	静岡 (中)
35. 2015	感謝の言葉の効用	茨城 (中)
36. 2015	社会言語能力と学術言語能力	茨城 (高)
37. 2015	英語以外のグローバル言語論	福井 (高)
38. 2015	グローバル化で消滅する言語	富山
39. 2015	言語・思考・行動の関係	滋賀 (高)
40. 2015	バイリンガルの両言語維持条件	京都市 (高)
41. 2015	多言語の中での言語習得	長野 (中)
42. 2015	言語的特徴と言語習得	愛知

は、21% → 18% → 31% → 15% → 19% となり、年度によってかなり差があるが、20% 近く、または、それ以上扱っている年度もある。

3. 2. 言語一般に関する題材

2011 ~ 2015 年度の言語一般に関する題材は、全部で 42 問あり、各年度ごとの問題数は、6 問 → 6 問 → 11 問 → 8 問 → 11 問という変化である。内容は、第二言語習得に関するものが 42 問中 16 問あり、67% と多い。次に多い内容としては、多言語やグローバル化に関連した内容で、42 問中 6 問あり、14% を占める。2011 ~ 2015 年度の題材内容と、出題した都道県市は次の表 1 のとおりである。

3. 3. 英語に関する題材

英語に特化した題材は非常に少なく、2011 ~ 2015 年度の合計でも、9 問だけである。具体的には、グローバル時代を反映して、Lingua franca の英語、International English、Englishes

表 2. 英語に関する題材 (2011 ~ 2015 年度)

No 年度	長文読解問題の内容	縣市
1. 2011	英語の差別用語の変遷	岐阜 (高)
2. 2011	Lingua franca の英語	静岡 (高)
3. 2011	International English	奈良
4. 2012	英語の社内公用語化	長野 (高)
5. 2012	Englisches 時代の英語技能	京都府 (高)
6. 2013	グローバル社会の英語	長野 (中)
7. 2013	ピジン、クレオール語	滋賀 (高)
8. 2013	語源学から学ぶ英語	京都府 (中)
9. 2015	水に関する英語の諺	岐阜 (中)

時代の英語技能、グローバル社会の英語という内容が半分に近い。以下の表 2 は、年度ごとの英語に関する題材内容と、出題した都道県市である。

3. 4. 文化一般に関する題材

2011 年度～2015 年度の文化一般に関する題材は全部で 31 問ある。文化に関して多様な内容で、分類分けは難しいが、日本文化に関するものが最多で、31 問中 12 問あり、39% を占める。他には、虹の見える方、文化による社会規範、文化固有のエチケット等、認知的な文化比較がある。以下の表 3 は、年度ごとの文化一般に関する題材内容と、出題した都道県市である。

3. 5. 英語圏文化に関する題材

英語圏に特化した文化の題材は非常に少なく、2011～2015 年度では、合計で 6 問である。一番多い 2013 年度で 3 問、2015 年度においては、ゼロである。英語圏文化を扱っている題材は、エッセイの舞台が英語圏というものや、アメリカの肥満の実態などである。以下の表 4 は、年度ごとの英語圏文化に関する題材内容と、出題した都道県市である。

表 3. 文化一般に関する題材 (2011 ~ 2015 年度)

No 年度	長文読解問題の内容	縣市
1. 2011	虹の見える方	栃木
2. 2011	外国人の古き良き日本	神奈川
3. 2011	日本人のアイコンタクト	長野 (中)
4. 2011	紛争解決と文化交流	長野 (高)
5. 2011	傘のイメージ	愛知
6. 2011	日本人の世論調査の将来	京都府 (中)
7. 2012	日本語の丁寧語の文化	東京
8. 2012	ある家族の食文化	茨城 (高)
9. 2012	文化による社会規範	千葉
10. 2012	日本の若者の未熟さ	長野 (中)
11. 2012	異文化交流の留意点	長野 (中)
12. 2012	「日本語上手」の建前論	静岡 (中)
13. 2012	ドイツの日曜大工の文化	大阪府
14. 2012	外国語学習と文化	和歌山 (高)
15. 2013	氷山に例えた文化的背景	東京
16. 2013	米文化と日本文化の比較	茨城 (中)
17. 2013	英国人が見た自動販売機	岐阜 (中)
18. 2013	非言語コミュニケーション	静岡 (高)
19. 2013	ギリシャ文化と中国文化	神奈川
20. 2013	パプアニューギニア文化	福井
21. 2013	食文化の変化とその背景	神戸
22. 2013	日本と欧米の意思伝達法	富山
23. 2014	異文化接触の捉え方	東京
24. 2014	日本文化と海外普及への方法	茨城 (高)
25. 2014	茶道の歴史と心	神奈川
26. 2014	日本の筆記文字の歴史と文化的背景	神奈川
27. 2015	ハワイフラダンスの歴史	大阪府
28. 2015	色彩の認知の違い	東京
29. 2015	文化固有のエチケット	京都市 (中)
30. 2015	チンパンジーと人間の社会性の比較	千葉
31. 2015	和食の文化遺産登録の経緯	三重

表4. 英語圏文化に関する題材(2011～2015年度)

No 年度	長文読解問題の内容	県市
1.2011	Lucky Charm の効用	大阪府
2.2012	英国の携帯電話マナー	山梨 (中)
3.2013	アメリカの贈り物の規則	富山
4.2013	アメリカの肥満問題	岐阜 (高)
5.2013	ロンドンのコンサート	長野 (高)
6.2014	英国人からみた米文化	茨城 (中)

4. 言語・文化に関する長文読解問題の具体例

4.1. 言語に関する長文読解問題例

以下に具体例としてあげる a)、b) は、言語一般に関する問題例であり、c) は、英語に関する例である。

a) 「グローバル社会における第二言語習得論」 (2014年度、茨城県高校)

この題材は、グローバル社会で、第二言語習得の目的や意義も変化していることを論じている。内容を要約した英文の穴埋め問題で、全体として316語の英文で、次のように始まる。The systematic study of how people acquire a second language is a fairly recent phenomenon, belonging to the second half of the twentieth century. Its emergence at this time is perhaps no accident. This has been a time of the ‘global village’ and the ‘World Wide Web’, when communication between people has expanded way beyond their local speech communities…

b) 「消滅する言語」(2012年度、静岡県・静岡市・浜松市)

この題材は、“Imagine, just for a moment, that you are the last speaker of English. No one else you know speaks your language…”と始まり、数的データをもとに現状を深く考えさせる題材である。この問題は、1175語の長文で、①言語の重要性、②言語の消滅しつつある現状、③言語

が消滅の危機に陥る原因、④筆者が言語消滅を懸念する理由、⑤ identity に関する内容とマオリ語の例、⑥ヘブライ語の例、⑦まとめから、言語の復興は可能である主張という構成である。

c) 「グローバル化社会の英語」(2013年度、長野県中学)

英語に関する題材では、英語の変化をとらえた題材が多く、この題材では、English has been recognized as an important language for international and intercultural communication in Asia, and of course all over the world. But the important thing about the current state of English is that there is no “one” English: there are many Englishes…と始まる476語の英文である。‘The Spread of English’を、ENL (English as a Native Language), ESL (English as a Second Language), EIL (English as an International Language) の国名と図とともに説明している。設問は、()に適語の書き入れ、和訳、並べ替えの次に、下線部の英文、We must not only study English, but also learn how to understand the cultures and ways of thinking of speakers of different varieties of English across the world. に関して、次の質問がある。

Question: If you have a team-teaching lesson with a new female ALT who is from one of the Asian countries and is not familiar with American or British culture, what are you going to do with her before the lesson and during the lesson to make the most use of the situation? Please write your own idea in English using the phrase “before the lesson” and “during the lesson”. Use more than 30 words.

4.2. 文化に関する長文読解問題例

以下に具体例としてあげる a)、b)、c) は、文化一般に関する問題例である。

a) 「食文化の変化とその背景」(2013年度、神戸市中高共通)

この題材は slow-food を主体に、その文化的背景を考えるものである。そして、試験問題は、

Enjoying good food is a fundamental pleasure. But the slow-food movement asks whether “good food” can mean more than simply the flavor and presentation of a meal on the plate. When we talk about quality food, we mean something that is good to taste but also good in terms of its background. Quality food cannot exist without respect for the environment, for species of animals and plants, for the workers who produce the food and the consumers who eat it…と始まる 601 語の英文である。設問では、内容理解の選択問題と、本文中の it や語句を日本語で説明することを求められている。

b) 「異文化接触の捉え方」(2014 年度、東京都中高共通)

この題材は、異文化に接するのが容易になった現在の利点だけではなく、問題点や課題を取り上げている 721 語の英文である。Today, many of us are taught that learning about other cultures is fun! People are different, and that’s okay! と始まり、後半のパラグラフでは、So, beyond the level of basic rights, how best can we observe, evaluate, and learn from cultural difference?...We can choose to turn these areas of intersection into battlegrounds or into meeting places. とある。つまり、異文化間の遭遇をコミュニケーションの機会とするか戦闘の理由づけとするかは私たち次第であると、思考を促す内容である。設問は内容に関する選択問題である。

c) 「文化固有のエチケット」(2015 年京都市中学)

この題材は、アイコンタクト等、表面に現れる文化による違いから、時間の感覚や、ビジネスでの常識や、人間関係を円滑にするための文化的価値観の違いを紹介している。最初のパラグラフは、“Etiquette is a fancy French word for fancy manners. Etiquette is more than learning how to eat correctly, it describes acceptable ways of behaving. Every culture has its own rules that govern etiquette, some of them are the same and some of them are different. と始まり、このあとに具体的

な例が続く 460 語の英文であり、設問は内容把握の選択問題である。

4.3. 考察

2011 ～ 2015 年度の言語・文化の題材を調査した結果、次の 3 点について述べたい。まず 1 点目は、言語に関する題材が 51 問と多く、中でも第二言語習得に関する題材が 16 問と多い。英語教育のための試験問題であるので、その動向や研究分野をおさえておくことは重要で、比重が大きいことも妥当だが、もっと大きい枠組みでの言語を扱い、考えることも大切であると考える。そういう視点では、4.1 の b の「消滅する言語」は、英語教員として、気づきを与えたり、自分の座標軸を定めて考える力を問うのにふさわしい題材だと思う。2 点目は、文化に関する題材に関してである。日本文化を発信する重要性が謳われる今日、日本文化の扱いはもちろん重要だが、単に目に見える表層的な文化的特徴だけではなく、異文化比較から何を捉え、何を考えるかが問える題材が理想的である。4.2 の b の「異文化接触の捉え方」は、異文化接触の利点・問題点の両面に触れ、c の「文化固有のエチケット」は、事象の文化的背景を深く考えさせる題材である。3 点目は、英語や英語圏文化に特化した問題に関してである。英語教育の場合、つい英語や英語圏文化を特別扱いしがちな面があったが、グローバル時代を反映して、英語や英語圏だけに焦点を合わせた問題が少ないのは、妥当だと考える。

言語・文化の題材の調査から、言語観を問い、議論できる深い題材が多いことがわかったが、設問は、4.1 の a、b、4.2 の a、b、c のように、内容把握の選択問題が全体の 40% を占める。しかし、4.1 の c の例にあげた「グローバル社会の英語」のように論述問題で理想的なものもある。「アジア出身の ALT と授業前にどう向き合い、どういう授業を作りあげるか」の設問である。英語教員は、変化する社会や言葉に対し、自分の立ち位置を明確にして、言語や文化の重

要性を生徒に伝える力が必要である。英語教員になる資質をはかるには、言語・文化に関する判断力も考慮すべきである。

5. おわりに

本稿では、2011年度から2015年度の25都府県市の教採試験（英語）の長文読解問題が、英語教員の資質を問う問題として適切か、調査・考察した。長文読解問題の題材を取り上げたのは、読み物の真髄は題材であると考えからである。言語文化に関する題材に焦点を当てたのは、言語と文化に関する判断が言語観に関わるからである。まず、題材428問(2011年度77問、2012年度93問、2013年度82問、2014年度87問、2015年度88問)を13種類に分けた。その結果、言語・文化の題材が、2011年度は21% (77問中16問)、2012年度は18% (93問中17問)、2013年度は31% (82問中25問)、2014年度は15% (87問中13問)、2015年度は19% (88問中17問)と重視されていることがわかった。次に言語・文化に関する題材にしぼり、1) 言語一般、2) 英語、3) 文化一般、4) 英語圏文化に関する題材のように4項目に分け、調査・考察した。言語・文化の題材の具体例をあげ、グローバル時代に即した理想的な例も紹介した。教採試験は、一般の英語能力試験と異なることを明確にし、教員の資質に重要な言語観も問うべきである。

註

- 1) (1) 東京都、(2) 茨城県、(3) 栃木県、(4) 群馬県、(5) 埼玉県・さいたま市、(6) 千葉県・千葉市、(7) 神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市、(8) 新潟県・新潟市、(9) 富山県、(10) 石川県、(11) 福井県、(12) 山梨県、(13) 長野県、(14) 岐阜県、(15) 静岡県・静岡市・浜松市、(16) 愛知県、(17) 三重県、(18) 滋賀県、(19) 京都府、(20) 大阪府・大阪市・堺市、(21) 兵庫県、(22) 奈良県、(23) 和歌山県、(24) 京都市、(25) 神戸市

本研究の一部は科学研究費補助金基盤研究(C)「グローバル人材を目指した主体的学習者を育む英語学習開発に関する研究」(課題番号26370679) 研究代表東郷多津の助成を受けている。

引用文献

- 近藤正臣 (2015). 『通訳とはなにか—異文化とのコミュニケーションのために』生活書院
- 高橋一幸 (2011). 『成長する英語教師』大修館書店
- 高橋貞雄 (2012). 「英語教育題材」Teaching English Now Vol. 22, 16–17 頁, 三省堂
- 仲 潔 (2012). 「言語文化観を育成する「英語科教育法」の実践」『言語文化教育学の実践』, 246–263 頁, 関西言語文化教育研究会 金星堂
- 森 住衛 (2015). 『日本の言語教育を問い直す』三省堂
- 八木克正 (2007). 『世界に通用しない英語』開拓社
- 吉野康子 (2012). 「教員採用選考試験（英語）に関する一考察—学習指導要領・指導法の扱いの視点から」『言語文化教育研究』第2号, 145–156 頁, 東京言語文化教育研究会
- 吉野康子 (2013). 「教員採用選考試験（英語）の3つの視点—英語能力・学習指導要領・指導法—」『実践女子大学FLCジャーナル』第8号, 43–59 頁, 実践女子大学外国語教育研究センター
- 吉野康子 (2013). 「教員採用選考試験（英語）の英語能力問題—長文読解問題の題材を中心に—」『言語文化教育研究』第3号, 161–173 頁, 東京言語文化教育研究会
- 吉野康子 (2015). 「長文読解問題における言語・文化・教育に関する題材—英語教員の資質を問う教員採用試験か—」『日本の言語教育を問い直す—8つの異論をめぐって—』311–320, 三省堂

吉野康子 (2015). 「教員採用試験 (英語) の長文読解問題—2011 ~ 2014 年度の言語・文化・教育に関する題材を中心に—」 第 4 号,

39-50 頁, 武蔵野大学グローバル教育研究センター紀要